

令和3年度 学校評価計画表 奈良県立桜井高等学校

<b>教育目標</b>	<p><b>普く 絶えず 正しく</b> ○ 全てにわたって、いつでも、どこでも、自分にも、誰にでも、正しく、最善をつくす。 ○ 何事にも、自らよく考え、よく判断し、よく実践する。</p> <p>具体的目標                  (1) 正しくあれ ・ ・ ・ ・ ・ 確かな学力と正しい判断力・実践力を身に付ける。                  (2) 健やかであれ ・ ・ ・ ・ ・ 若者らしく、心身ともにたくましい身体をつくる。                  (3) 心豊かであれ ・ ・ ・ ・ ・ 自己敬愛に基づく人間関係の醸成と豊かな情操を育てる。</p>	<b>総合評価</b>
-------------	---	-------------

<b>学校目標</b>	<p>◎求める生徒像 「社会で生きる力」を育む &lt;「自立した社会人」を目指して&gt;</p> <p>○ 「正解」のない新しい社会を生き抜く力を身に付ける生徒                  ○ 対人関係力・協調性・コミュニケーション力を備える生徒                  ○ 目的意識をもち、自分自身を変革する意欲をもつ生徒</p>	<p>◎目指す学校像 「ともに学ぶ場」を創る &lt;「学びの中心」として&gt;</p> <p>○ 生徒相互で学び合う、知的な学びの共同体づくりに努める学校                  ○ 高い専門性と指導力を有し、生徒や保護者から信頼を得る学校                  ○ 地域社会や外部機関と連携し、「地域とともにある学校づくり」を推進する学校</p>	
-------------	--	---	--

令和2年度の成果と課題 本年度重点目標

昨年度は「志を高く、自己を啓き、未来を拓こう」を重点目標に、「高い目標を掲げ、知識や能力の開発に取り組み、自分の未来を展望できる」生徒の育成を目指して取り組んだ。コロナ禍により、学習活動や特別活動・課外活動が様々な制限を受けながらも、ノーチャイムの実施、朝のSHRでの学校生活を振り返り文章化すること、スコラやスタディサプリ、ゲーグルクラスルームの活用などに取り組み、成果をあげた。本年度は「自己を変革する『勇氣』と自己を受け入れる『人間愛』を育み、卓越した『探究心』で未来を拓く」の視点で、より一層内容を充実させることを課題とし、本年度の学校経営に反映させ、計画的に取り組む予定をしている。	<p><b>自己を変革する「勇氣」と自己を受け入れる「人間愛」を育み、卓越した「探究心」で未来を拓く ～「正解」のない社会を豊かに自分らしく生きるために～</b></p> <p><b>具体的目標</b></p> <p>○ 様々なことに興味・関心をもち、自分の知識や能力の開発や伸長に意欲的に取り組むとともに、将来のために自己を変革する勇氣をもつ生徒を育てる。                  ○ 将来に明確な目標をもち、その実現を目指して日々の生活や学習の中で時間と目的をマネジメントし、失敗しても何度でも挑戦する粘り強さをもつ生徒を育てる。                  ○ 心身ともに健康で、安全教育や食育を通して安全や健康を自分で管理し、将来にわたり維持増進しようとする生徒を育てる。                  ○ 他者とコミュニケーションを積極的に図り、協働することを通して、集団を動かすリーダーシップをもつ生徒を育てる。                  ○ 人権感覚に優れ、周囲の状況や他者の気持ちを理解し、相手の立場を想像、配慮し、多様性を認め合うことのできる生徒を育てる。                  ○ 学校行事や部活動の活発化・効率化を図り、集団や社会に貢献する意義を理解し、積極的に貢献する姿勢と意欲をもつ生徒を育てる。                  ○ 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行い、課題を客観的、科学的に捉え、思考力、判断力、表現力を高め、卓越した探求心をもった生徒を育てる。                  ○ ICT教育を推進し、将来、「正解」のない社会にあって、どのような職業に就いても活用できる汎用的スキルを身に付け、未来に生かすことのできる生徒を育てる。</p>	
--	---	--

評価項目	目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標(昨年度の数値)	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価	
<b>重点目標の実現</b>	自己を変革する「勇氣」～何度でも挑戦する粘り強さを身に付けさせる～	「自己管理能力」を身に付けた生徒の育成を図る。あらゆる場面でメモすることを徹底し、1週間の振り返りを行い、次週の計画をたてられるようにする。 <b>A 1年「スコラを使う前と比べて、1週間の振り返りをするようになった」と答える生徒 60%以上(29.0%)</b> <b>A 1年「スコラを使う前と比べて、1週間の計画を立てられるようになった」と答える生徒 60%以上(33.8%)</b> 進路対策講座やWeb講座「スタディサプリ」を利用した学習習慣の定着を図り、強い意志で継続させる。 <b>A スタディサプリは活用できたと思う生徒 50%以上(47.0%)</b> 日々の生活や学習の中で時間と目的をマネジメントできる力を養う。 <b>A チャイムの有無にかかわらず、自分から動くことを心がけ実践する生徒 90%(87.5%)</b>					
	自己を受け入れる「人間愛」～他者とながら集団を動かす力を身に付けさせる～	生徒の社会参加活動の機会を増やし、地域社会への関心を高め、連携を深める。 <b>A 生徒による施設訪問、交通安全啓発活動等を5回以上実施(5回)</b> <b>A 様々な活動を通して主体的な社会参加活動の意欲が向上した生徒 70%以上(47.2%)</b> 人権教育ホームルーム活動等において、生徒が他者ともに尊重する意識を高め、積極的に活動できるような展開を考え、教材を作成する。また、講演会などを通して命の大切さについて考えさせる。 <b>A 「人権や命について学ぶことが多かった」と答える生徒 90%以上(92.8%)</b> 日常生活の中で、周囲の状況や相手の気持ちを理解しつづ、自分の意志をもって行動できる力を養う。 <b>A 人より先にあいさつをすることを心がけ、実践している生徒 90%(82.3%)</b>					
	卓越した「探究心」～課題を発見し、解決を提案する力を身に付けさせる～	教科指導、ホームルーム等あらゆる場面で、目標設定に関する話題を提供していく。 <b>A 卒業時、将来の目標が「はっきり」または「ほぼ決まった」と答える生徒 90%(85%)</b> <b>A 第2学年末に、卒業後の進路希望を「はっきり」または「ほぼもっている」と答える生徒 80%(76%)</b> 学校生活の充実だけでなく、学力の向上や進路実現にも役立つように様々な情報交換の場を設ける。また、フューチャーセンターのより有意義な活用のしかたを生徒会役員を中心に考え、改善を図る。 <b>A フューチャーセンターで情報を得たり、意見や情報を書いたりしたことがある。50%(22.1%)</b> <b>A フューチャーセンターが役に立っていると感じる生徒 60%以上(52.0%)</b> 社会の出来事に興味関心をもち、様々な視点でものごとを捉えることができる生徒を育てる。 <b>A 社会の出来事に興味関心があり、様々な方法でニュースに触れることが多いと答える生徒 70%以上(61.5%)</b>					
<b>学習指導</b>	授業改善と指導力の向上	シラバスや授業アンケートを活用しながら、個々の教員が指導方法や指導内容の改善・充実を図るとともに、研究授業週間を設け、全教員が授業公開を行い、指導力の向上を図る。 <b>A 「授業アンケート」における生徒の授業満足度 平均85%以上(2学期：89.7%)</b> <b>A 「卒業アンケート・学年末アンケート」における学力向上実感度 平均75%(全体：72.3% 1年：72.3% 2年：67.1% 3年：77.5%)</b>					
	家庭学習習慣の定着	「小テストを実施する」、「適正量の課題を課す」など生徒に適正な負荷をかけることに加えて、「スタディサプリ」を活用させることで、予習・復習の指導を徹底する。 <b>A 1日平均60分以上自主的な学習をする生徒 75%以上(全体：53.5% 1年：51.0% 2年：40.4% 3年：68.8%)</b>					
<b>特色あるコース</b>	書芸コースの充実	早期から、より広く、より深い専門的な学習に取り組み、専門科目へと発展させる。卒業書作展においては3年間の集大成の場であるとともに、25期生として、3年間の学習への深い想いと強い意思を持ちながら、歴史と伝統を踏まえ、集団としての力を結集するとともに、各自の表現目標に基づいた作品制作を行い、充実した展覧会を行う。 <b>A 書芸コースで学んだ満足度 95%以上(82.4%) (ほぼ満足を加えると、100%)</b> <b>A 卒業書作展への満足度 95%以上(91.2%) (ほぼ満足を加えると、100%)</b>					
	英語コースの充実	オンライン・イングリッシュキャンプや修学旅行などを通して、できるだけ生きた英語に触れ、英語による相互理解の機会を充実させる。また、英語学習を通じて世界に視野を広げ、グローバルな視野に立って物事を考えられる生徒を育てる。加えて、GTECにおいて、1・2年生は年間2回(1回目3技能アセスメント版、2回目4技能アセスメント版)、3年生は1回(4技能検定版)を受験させることで実践的な英語コミュニケーション能力を測定し、英語学習へのモチベーション向上を図る。 <b>A 1年生 CEFR-J A2.2 以上 15人以上(6人)</b> <b>A 2年生 CEFR-J A2.2 以上 30人以上(20人)</b> <b>A 3年生 CEFR-J B1.1 以上 15人以上(11人)</b>					
<b>読書指導</b>	自主学習をサポートする環境づくりと読書習慣の定着	多目的な図書館利用の充実を図る。特にICTを活用した授業での利用を推進する。あわせて本の貸出数の増加を目指す。 <b>A 図書館の利用者数 5,000人以上(2,756人)、本の貸出数1,500冊以上(1,288冊)、図書館を貸出・閲覧業務以外で使用した回数50回以上(32回)</b>					

評価項目	目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標(昨年度の数値)	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
生徒指導	基本的生活習慣の確立	自分一人でも継続的に実践するという強い意志を育むとともに、時間を守り自律的な生活習慣を身につけた生徒を育てる。 A 「いつも授業の開始と終了時の挨拶(起立・礼)を自ら姿勢正しく行った」と答える生徒 85% (79.4%)				
	教育相談の推進と充実	自立した社会人を目指し、自発的にルールやマナーを守り、社会人の一員としての基本を身につけた生徒を育てる。また、周囲の状況や他人の気持ちを理解し、相手の立場を想像し、配慮できる生徒を育てる。 A トイレのスリッパは必ず履き替えると答える生徒85%(81.4%) A スリッパが乱れていたらきちんとそろえると答える生徒 80%(67.2%)				
キャリア教育	自らの将来を考える意識の向上	生徒が、自らの悩みを客観的に捉え、自ら考え、適切に対処できる力を育成するとともに、相談できる環境を整える。 A 「悩みを相談する場所があるまたは人がいる」と答える生徒 85%以上 (80.6%)				
進路指導	進路情報の提供の充実	各学年における進路行事やLHR、「総合的な探求の時間」などを通じて、自己を振り返り、さらには自らで変革し、将来を展望する機会を増やす。特に1年は類型選択が進路を見据えた選択ができるように支援する。 A 「進路や将来の仕事、生き方について考える機会が多い」と答える生徒 85%以上 (91.2%)				
人権教育	自主活動の充実	ホームルームや進路説明会等において個々に応じた適切な情報を提供するとともに、キャリアデザインルームの活用等を通して、自分の将来を主体的に考え、夢と目標をもって進路実現に向けて努力する生徒を育てる。 A 「進路行事(説明会やガイダンス等)やCDRで自分の進路に関する情報を得ることができた」と答える生徒 70%以上 (69.5%)				
生徒会活動	各行事における生徒会活動の活性化と内容の充実	人権委員の活動として全員参加のFreeや広報紙の発行を行うとともに、人権学習会や調査活動、募金活動等に応じていくことで人権意識の深化を図る。 A 実施回数 各学期2回以上(各学期2回)				
	リーダー育成及び生徒のコミュニケーション能力の向上	生徒たちが率先して主体的に活動できるよう学校行事や部活動を計画し、行事や部活動の質を高める。 A 部活動に積極的に参加すること80%以上 (74.6%) A 学校行事で良い思い出を作ること80%以上 (79.9%) A ボランティア活動に参加すること80%以上 (68.7%)				
健康教育	健康管理能力の育成	学校は「集団生活の場」であり「みんなで高め合う場」であることを生徒会役員に深く自覚させ、より規律ある学校生活をリーダーとして皆に促すとともに、互いにコミュニケーションを取りながらグループ間の関係を調整しつつ、全体を円滑に進めていくことができるファシリテート能力を養う。 A リーダー研修会 4回(3回)				
安全教育	安全・安心に対する自己管理意識の向上	生徒が、自ら健全な心身の自己管理ができるよう、生徒個々や学校課題に応じた保健情報等を生徒・保護者に積極的に提供し、適切な指導を行う。 A 「健康に関する指導が適切」と答える生徒 85%以上 (86.0%) A 「健康に関する指導が適切」と答える保護者 95%以上 (95.0%)				
	学校安全体制の確立	健康について、生徒が自らの健康状態を客観的に捉え、自ら考えて健康管理に努める実践力の向上を図る。 A 年間保健室来室件数800件以下(2/25まで530件) A インフルエンザ感染による出席停止生徒数50人以下(2/25まで0人)				
環境美化	自主的な美化活動の推進	登下校指導や交通安全講習会等を充実させ、交通ルールやマナーを自律的に遵守する生徒を育成する。 A 「日常的に交通ルールやマナーを遵守し実践している」と答える生徒 95%以上 (97.2%)				
開かれた学校づくり	学校情報の提供と成果の発信	避難訓練等を通して防災意識を高め、自分で自分の身を守る力を育てる。 A 「安全や事故防止の指導が適切」と答える生徒 95%以上 (88.0%)				
	教職員の危機管理意識の向上	教職員の危機管理意識を高めるとともに、教職員一体となって安全教育に取り組む。 A 危機管理体制が整備され、非常時に教職員が適切・迅速に対応できる。100% (82.6%)				
教職員の働き方改革	勤務時間管理の徹底	全生徒が清掃活動を通して勤労の尊さを学び、自分たちの学校を大切にす気持ちをもたせる。 A 校内を美しく保つことを意識している生徒 90%以上(94.1%)				
	健康障害の予防	環境美化を啓発するポスターを作成・掲示し、美化意識の向上を図り、他に配慮し実践できる生徒を育てる。 A 「校内の環境がいつも美しい」と答える生徒85%以上(80.0%)				
経費の節減	学校運営経費の効率的な執行	広報活動を積極的に行うことで、本校の教育活動を広く紹介し、県民の本校への関心を高める。 A 新聞等のマスメディアで取り上げられた本校の教育活動 25件以上 (21件)				
	学習意欲の育成	中学生にとってわかりやすく、興味をひく、e-オープンスクールの動画を作成し、配信する。 A e-オープンスクールへの視聴申込延べ数 800件以上 (740)				
第1学年	規範意識・社会性の育成	職員による情報発信の一層の拡大を図り、生徒、保護者を中心に必要な情報を提供する。 A 「桜井高校のホームページを見ている」保護者50%以上 (45.0%)				
	自主的な学習習慣の定着と進路目標の決定	業務の適正な配分と効率化により、全教職員の時間外従事時間の削減を図る。 A 時間外従事時間が月45時間の教職員ののべ人数 56人以下 (78人) A 時間外従事時間が年360時間の教職員の人数 7人(14人)				
第2学年	自主的な学習習慣の定着と進路目標の決定	業務全般について関係職員が協働して対応する体制をつくり、職場環境の改善を行い、健康障害の予防を図る。 A ストレスチェック集団分析における総合健康リスク85以下 (89)				
	中堅学年としての意識の向上と自主的な行動の育成	社会の動向を踏まえ、省エネに努める。 A 光熱水量3%減 (1%減)				
第3学年	自己の進路を実現させ、自立した社会人を目指す	基礎・基本を大切に学習を定着させ、家庭での予習・復習の習慣を確立させる。 A : 1日平均60分以上自主的な学習をする生徒 70%以上 (51.0%)				
	最終学年としての充実	基本的な生活習慣や規範意識を身に付け、けじめある生活を確立する。部活動や学校行事への参加を通じて、人間関係の大切さや集団活動の意義を理解させる。 A 年間遅刻総数200回以内 (274回) A 生活点検時違反者学年総数 20人以内 (21人) A ボランティア参加生徒 50%以上 (一昨年40.9%)				
第3学年	自己の進路を実現させ、自立した社会人を目指す	自ら計画し、強い意志をもって学習する習慣を定着させる。 A 1日平均60分以上自主的な学習をする生徒70%以上 (40.4%)				
	最終学年としての充実	自分の将来に対する意識の向上に努める。 A 自分の将来の目標をもっている生徒 80%以上 (76.0%)				
第3学年	自己の進路を実現させ、自立した社会人を目指す	中堅学年としての自覚を高め、修学旅行や学校行事・部活動、社会活動等を通して、集団や社会に積極的に貢献する姿勢と意欲をもつ生徒を育てる。 A 充実した学校生活を送れた生徒 95%以上 (75.4%) A 修学旅行の満足度 90%以上 (実施なし)				
	最終学年としての充実	目的意識をもち、自分自身を変革する努力をすることにより、自己の進路を実現させ、自立した社会人を目指す。 A 1日平均60分以上自主的な学習をする生徒 80%以上 (68.8%) A 希望進路を実現させることに「満足している」生徒 90%以上 (89.3%)				
第3学年	自己の進路を実現させ、自立した社会人を目指す	最終学年として自らの活動に誇りを持たせ、学習活動や学校行事等に積極的に取り組ませることにより、充実した高校生活を送り、将来の夢や目標をもたせる。 A 桜井高校に入学して「とても良かった」と思う生徒 70%以上 (58.9%) A 自分の将来の目標を見つけることに「満足している」生徒 90%以上 (85.5%)				

A : 達成割合 : 100%以上      B : 達成割合 80~99%      C : 達成割合 60~79%      D : 達成割合 59%以下